

## 6. 緑に関する配置の方針

### 6-1 『まもる』・『いかす』ための緑の配置

今ある様々な緑を活かし、貴重な緑を将来へ受け継ぐため、『まもる』・『いかす』ための基本方針に基づき、市内の緑を次のように位置づけます。

#### (1) レクリエーションの拠点となる緑

市内全域及び周辺市町村からも利用者が多いフラワーパーク江南、すいとびあ江南、曼陀羅寺公園、また、日常生活圏におけるレクリエーションの場として活用されている蘇南公園や中央公園、久昌寺公園などを、本市においてレクリエーションの拠点となる緑として位置づけます。

#### (2) 骨格となる緑

木曾川は、自然環境に優れ、昆虫や鳥類が多く生息し生物多様性の側面からも重要な緑です。また、農地は自然災害の危険防止や田園景観を構成するなど様々な機能を有する緑と言えます。本市の骨格を形成する緑として、広域的な河川である木曾川やその周辺の樹林、並びに市街地周辺の農地を位置づけます。

#### (3) 花とのふれあいの場となる緑

江南市を特徴づけている花とのふれあいの場となる緑として、国の名勝・天然記念物となっている木曾川堤の桜並木、五条川の桜並木のほか、江南藤まつりが行われる曼陀羅寺公園の藤、あじさい祭りが行われる音楽寺のあじさいなどの緑を位置づけます。

#### (4) 歴史、文化とかかわりのある緑

地域により守られてきた曼陀羅寺、音楽寺、久昌寺などの社寺が多く残っていることが本市の特性と言えます。こうした社寺の歴史の趣きを際立たせている社寺林の保全に努め、歴史、文化とかかわりのある緑としてこれらを位置づけます。

#### (5) 都市公園

身近で安心して遊べる都市公園は、藤を活かすとともにバリアフリー化などを進め安全性の向上を図り、既存の公園の適切な施設管理を行い、快適な生活環境を形成する身近な緑として位置づけます。

#### (6) その他の緑地（公共施設緑地）

都市公園と同様に、条例による公園や児童遊園・遊園地などの公共施設を快適な生活環境を形成するため保全・活用し、身近な緑として位置づけます。

## 6-2 『つくる』ための緑の配置

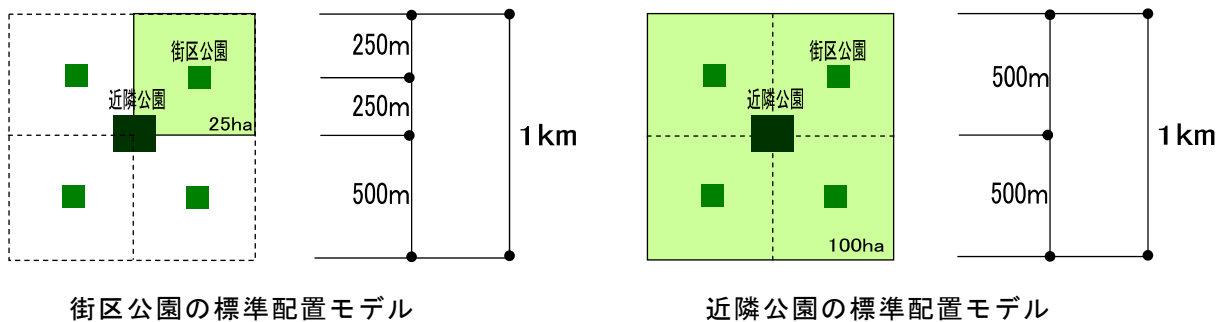
市内の緑を増やすため、『つくる』ための基本方針に基づき、都市公園などの緑を次のように配置します。

### (1) 都市公園の配置方針

市民一人当たりの都市公園面積が、全国・愛知県平均より大きく下回っているため、地域のバランスを考慮するとともに、既存の街区公園及び街区公園に準じる機能を有する児童遊園・遊園地・広場などの誘致圏を250mとしたときに公園などが不足する地区に、重点的に順次整備するよう検討します。

また、新市街地の形成を検討している布袋駅東側は、基盤整備により街区公園などの配置を検討していきます。

国営木曾三川公園については、供用区域の拡大を目指し、整備の促進を国へ要請し、早期の全面開園を目指していきます。



街区公園の標準配置モデル

近隣公園の標準配置モデル

### (2) まちの顔となる緑

中心核やサブ核として位置づけられている江南駅周辺、布袋駅周辺、江南厚生病院周辺は、市民が多く集まり、まちの顔となる場所であることから、花や緑でうるおいある街並みを演出します。

### (3) まち中の緑

住宅地、商業地、工業地などそれぞれの土地利用に合わせ、普段の生活の中でふれあう花と緑を増やし維持するため、民有地や公共施設の緑化に加え、街路樹の整備や管理を推進します。

また、生垣設置補助やシンボルツリーなどの各家庭における緑化の支援制度の充実を検討していきます。

### 6-3 『つなぐ』ための緑の配置

市内にある個々の緑の有機的なネットワークを形成するため、『つなぐ』ための基本方針に基づき、次のように配置します。

#### (1) 遊歩道・サイクリングロード

国営木曾三川公園の活用の促進や魅力の向上を図り、木曾川の自然を楽しむレクリエーションのネットワークを形成するため、木曾川堤防周辺において、一宮市、扶桑町、犬山市の近隣市町につながる遊歩道・サイクリングロードの適切な維持管理や利用促進を図ります。

#### (2) 尾北自然歩道

五条川に沿って整備されている尾北自然歩道は、犬山市から岩倉市へとつながる美しい桜並木でもあります。この歩道と桜並木を保全し、利用促進を図ります。

#### (3) 河川・水路の水と緑のネットワーク

青木川などの河川では、河川の水面と川沿いの草木が一体となり、生物が生息しやすく、緑豊かで心が安らぐ水辺を創出するため、河川の堤防の有効活用、隣接した広場の整備や緑化などにより、水と緑のネットワークの充実を図ります。

木曾川に平行して流れる宮田導水路の暗渠化についても、その上部を利用した散策路などの整備を検討し、すいとぴあ江南やフラワーパーク江南などの施設を結ぶネットワークの形成を促進します。

#### (4) 道路の緑のネットワーク

緑陰の確保による快適な歩行者空間の形成や季節の彩りのある街並みを形成するため、市街地を中心に比較的幅員の広い幹線道路において、街路樹の整備を推進するとともに、既存の街路樹の適切な管理により、緑のネットワークの形成を進めます。

木曾川堤の県道浅井犬山線沿道では、国指定の名勝にふさわしい壮観な桜並木を保全します。

#### (5) ふるさと江南歴史散策道

歴史的・文化的資源である社寺などを巡るふるさと江南歴史散策道では、社寺などの資源と一体となった緑を活かすとともに、散策道沿道における緑化や草花などにより景観を向上し、緑によって散策や歴史・文化とのふれあいを楽しめる散策道の形成を目指します。



## 6-4 総合的な緑の配置方針

『まもる』・『いかす』ための緑の配置、「『つくる』ための緑の配置」、  
「『つなぐ』ための緑の配置」を踏まえ、総合的な緑の配置方針及び配置方針  
図を示します。

### (1) 骨格となる緑

自然環境に優れ、生物多様性の側面からも重要な緑である木曾川、災害防止  
や田園景観の構成機能などを有する農地は、骨格となる緑として位置づけます。

### (2) 江南市らしさを特徴づけている花とふれあえる緑

木曾川堤の桜並木、五条川の桜並木、曼陀羅寺公園の藤、音楽寺のあじさい  
は、江南市らしさを特徴づけている花とふれあえる緑として位置づけます。

### (3) まち中の緑

市街地において快適な生活環境を形成する身近な緑である都市公園、条例に  
よる公園や児童遊園・遊園地などの公共施設のほか、社寺、住宅地の手入れさ  
れた庭などの民有地の緑は、まち中の緑として位置づけます。

### (4) 暮らしをつつむ緑（集落地）

市街地周辺部における郊外の住宅地の緑や住宅地の周囲に点在する農地、樹  
林地、草地の緑は、暮らしをつつむ緑として位置づけます。

### (5) まちの顔となる緑

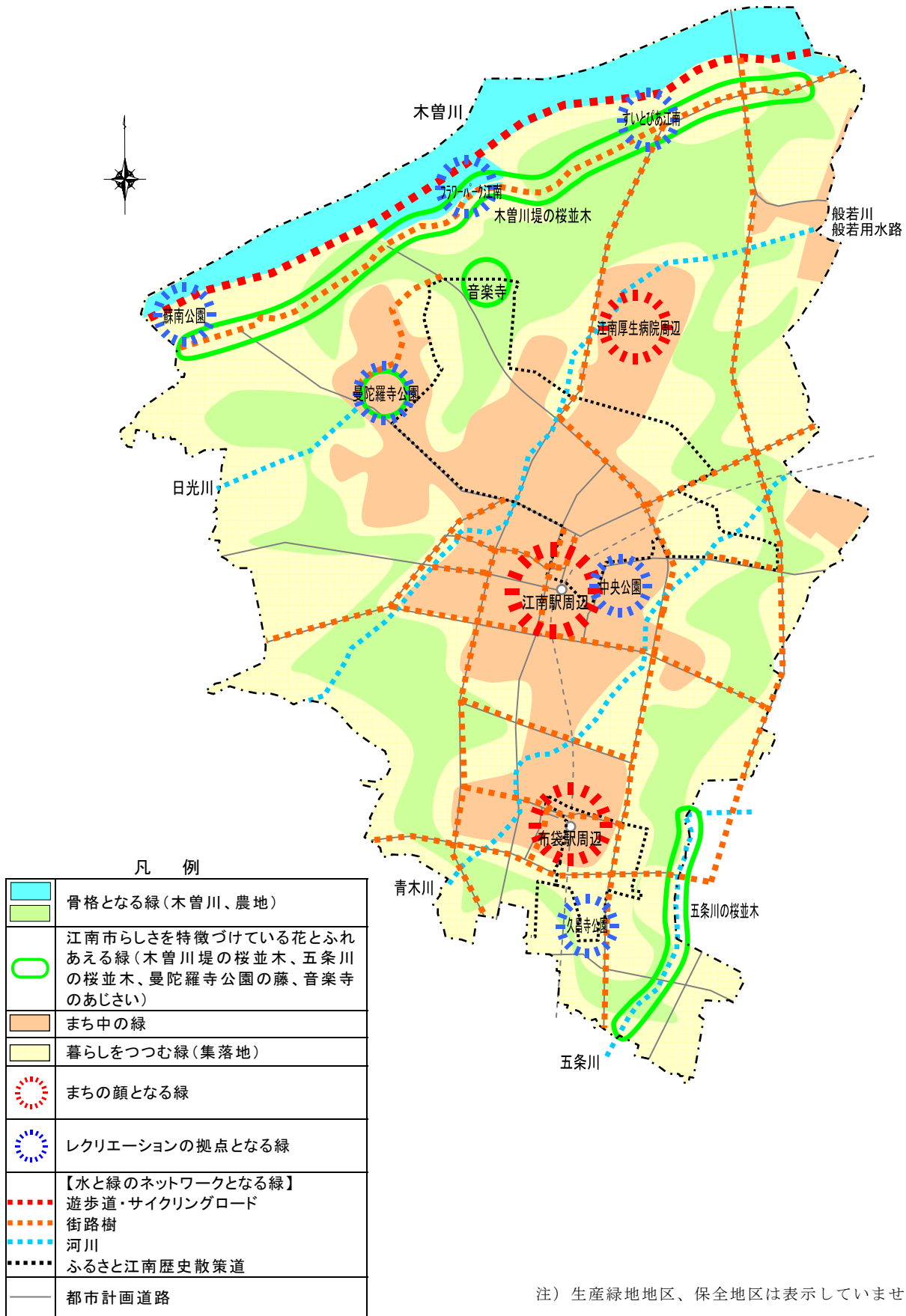
中心核やサブ核として位置づけられている江南駅周辺、布袋駅周辺、江南厚  
生病院周辺は、市民が多く集まる場所であるため、花や緑でうるおいのある街  
並みを演出するまちの顔となる緑として配置します。

### (6) レクリエーションの拠点となる緑

市内全域及び周辺地域からも利用者の多いフラワーパーク江南、すいとぴあ  
江南、曼陀羅寺公園、また、市民の主な憩いの場となっている蘇南公園、中央  
公園、久昌寺公園はレクリエーションに活用する本市の主な緑として位置づけ  
ます。

### (7) 水と緑のネットワークとなる緑

木曾川沿いの遊歩道・サイクリングロード、五条川沿いの尾北自然歩道、緑  
豊かで心が安らぐ水辺を創出する青木川などの河川、市街地を中心に緑の連続  
性を確保する街路樹などにより水と緑のネットワークを形成します。



総合的な緑の配置方針図